

日本医療研究開発機構（AMED）
障害者対策総合研究開発事業 神経・筋疾患分野
「慢性疲労症候群に対する治療法の開発と治療ガイドラインの作成」研究班

○2016.10.3 ウェブサイトをリニューアル致しました

御挨拶

日本医療研究開発機構（AMED）障害者対策総合研究開発事業
神経・筋疾患分野「慢性疲労症候群に対する治療法の開発と
治療ガイドラインの作成」研究班

我が国におきましても、1991年より旧厚生省にCFS研究班（主任研究者：木谷照夫）が発足し、6年間（1991年4月～1997年3月）に渡って病因・病態の解明、治療法の開発に向けた臨床研究が行われています。1999年、「疲労の実態調査と健康づくりのための疲労回復手法に関する研究」の中で**慢性疲労の実態調査**（対象：一般住民4,000名、有効回答者3,015名（75.4%））を行いましたところ、国民の35.6%が慢性的な疲労を自覚しており、生活に何らかの支障をきたしている方が約5.2%存在することが明らかになりました。なかでも**重篤な慢性疲労状態であるCFSの診断基準を満たす方も0.3%確認**されていまして、この数字を単純に現在の日本人口1億2千万人に当てはめてみますと、**我が国ではCFS患者は実に約36万人**も存在することとなります。

2012年、13年ぶりに同一地区の疫学調査（対象：一般住民2,000名、有効回答者1,149名（57.5%））を行った結果でも、6か月以上の慢性的な疲労を自覚している方が38.7%おられ、全身倦怠感のため月に数日は社会生活や労働ができず、自宅にて休息が必要であると答えた方が2.1%認められました。さらに、**2012年に改定したCFS臨床診断基準を満たす方が0.1%**、1999年のCFS診断基準を満たす可能性がある方が0.2%認められており、CFSは21世紀の社会において対応すべき疾病の1つであることは間違いありません。

研究班のHP

<http://www.fuksi-kagk-u.ac.jp/guide/efforts/research/kuratsune/>